



大中遺跡公園を現地視察

福祉教育委員会

平成24年10月2日～4日

大中遺跡、であいのみち「ミュージアムロード」につづぐ

(兵庫県加古郡播磨町)

大中遺跡公園は、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての代表的な遺跡。多くの住居跡が残され、現在は6棟が復元されており、憩いの広場等として利用されています。元々は鉄道が通っていた道を遊歩道として整備し、5つの時代の歴史をプレートで展示している「であいのみち」が公園までつながり、「大中遺跡まつり」は、全国から3万人が訪れるなど町の活性化になっています。

本市ならではの文化財の有効活用が重要です。



淡路市内各所で行われているいきいき100歳体操

いきいき100歳体操について・北淡震災記念公園

(兵庫県淡路市)

いきいき100歳体操は、必ず椅子を使うため、杖をついている人でもできる体操です。対象は介護保険の利用が増えてくる年代で、筋力、持久力、バランスを維持することを目的にしています。家で一人で行うのではなく、公民館などで行うことを理想としています。介護予防は切れ目のない支援・見守りが必要で、継続してできる制度がよい。塩尻市では会場が少ないこと、また継続するための仕組みづくりが課題となっています。

北淡震災記念公園は、阪神淡路大震災で現れた野島断層をありのままに保存・展示し、断層をわかりやすく解説しています。語り継ぐだけでなく、



北淡震災記念公園で断層を視察

将来起こりうる大震災について考える場所でした。

災害時要援護者の支援について (兵庫県南あわじ市)

災害時要援護者支援マニュアルは平成21年に策定されました。要援護者の絞り込みは情報提供の同意者のみのため対象者の3割しか登録されていません。登録者の個人情報等を社会福祉協議会や消防団等に提供するには、個人情報保護の誓約書を書いてもらうなど配慮しているものの、集合住宅等では地域に知られにくいという意識から、障害者の登録が極端に少ないといったことも課題となっています。

「トライやる・ウィーク」について (兵庫県・兵庫県神戸市)

中学2年生が一週間、職場体験等を通じ地域について学



神戸市立渚中学校を視察

ぶ取り組み。学校・教育委員会だけの支援ではなく、県民すべてが関わる教育のスタイル。すべての中学校の希望する生徒が対象となり、中学生は1〜6人のグループに分かれ企業に受け入れてもらいます。

参加する前は不安そうだった子供たちも、「トライやる・ウィーク」中の嬉しかった体験などを学校で話したり、休みがちな生徒が参加し、その後学校にも来られるようになったなどの成果があがっています。

学校、家庭、地域の協力や連携、積極的な取り組みが確かに生徒の生きる力を育てていると感じました。企業や先生方の努力、工夫があつてこそその取り組みであり、今後は長野県や塩尻市においても参考にして欲しいと感じました。